

# 第64回全国公立学校教頭会研究大会 第42回東北地区小中学校教頭会研究大会 第47回岩手県小中学校副校長会研究大会

## 岩手大会のご案内

た子供の育成を実現する学校づくりの推進」

「コーディネーター」

山森 光陽 氏 (国立教育政策研究所総括研究官)

「シンポジスト」

森本 晋也 氏 (文部科学省 総合教育政策局男女共同

参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育

調査官)

伊藤 晃二 氏 (宮古市教育委員会教育長 宮古地区教

育委員会協議会 会長)

松葉 覚 氏 (盛岡市立下橋中学校 前校長 岩手県

中学校長会 前会長)

「二日目」(7月29日(金))分科会

○第一分科会 A・B 『教育課程に関する課題』

提言 A 静岡県(中)・宮城県(小)

B 奈良県(小)・岩手県(中)

○第二分科会 『子供の発達に関する課題』

提言 山口県(中)・秋田県(中)・岩手県(小)

○第三分科会 『教育環境整備に関する課題』

提言 愛媛県(小)・山形県(小)・岩手県(中)

○第四分科会 『組織・運営に関する課題』

提言 熊本県(中)・福島県(中)・岩手県(小)

○第五分科会 A・B 『教職員の専門性に関する課題』

提言 A 北海道(小)・青森県(中)

B 埼玉県(中)・岩手県(小)

○第六分科会 『副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫

る課題』

講師 東京大学大学院教授 勝野 正章 氏

○特別分科会① 『時宜に応じた課題』

講師 日本大学文理学部教育学科教授 中橋 雄 氏

「一人一台情報端末時代に求められる情報モラルとメ

ディアリテラシー」課題の共有と学校教育への位置づ

けについて」

○特別分科会② 『開催地の創意を生かした課題』

講師 (株)八木澤商店 代表取締役 河野 通洋 氏

研究主題 (全国統一研究主題 第12期3年次)

未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり

サブテーマ

「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」

サブテーマの設定理由

第64回大会の開催地である岩手県は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の被災地の一つでもあります。学校現場では、郷土を愛し復興・発展に資する人づくりに取り組んでいます。このことは、岩手県で開催される大会であるという意義からも、そして岩手県に限らず、我が国全体で未来を生きる力を身に付けた子供を育成するためにも重要な視点であると考えました。

岩手大会の開催をとおし、自分たちの郷土に愛情と誇りを持ち、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を身に付けた子供を育成するための学校づくりを、副校長・教頭がどのように推進していくべきなのかを明らかにすることをめざし、サブテーマを「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」としました。

開催期日 令和4年7月28日(木)・29日(金)

開催地 岩手県盛岡市

開催方法 ハイブリッド大会

東北ブロックは参集参加

東北以外の都道府県はオンライン参加

会場

〈全体会場〉アイーナいわて県民情報交流センター

〈分科会〉アイーナいわて県民情報交流センター  
ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

一日目 7月28日(木) 全体会

①開会行事

②記念講演

【講師】映画監督 大友 啓史 氏

【講師の紹介】

1966年 岩手県盛岡市出身 慶応義塾大学法学部法律  
学科卒業  
1977年〜1999年 LAに留学、ハリウッドにて脚

本や映像演出に関わることを学ぶ。帰国後、連続テレビ  
小説『ちゅらさん』シリーズ、『ハゲタカ』『白洲次郎』、  
大河ドラマ『龍馬伝』等を演出

2009年映画『ハゲタカ』で映画監督デビュー  
2011年NHK退局、株式会社大友啓史事務所を設立

代表作に『るろうに剣心』シリーズ5部作(2012  
〜2021)、『3月のライオン』2部作(2017)、

『影裏』(2020)

③シンポジウム

「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付け

「被災地の復興は発酵で街づくり」  
 講師 (株)岩泉HD 代表取締役社長 山下 欽也 氏  
 「価格や量とは別次元で未来を創る」度重なる苦境を  
 乗り越えて」

「新たな研究大会分科会の在り方の提案」  
 ～ハイブリッド方式による全国大会の開催～

今回の第64回全国公立学校教頭会研究大会岩手大会に  
 においては、過去2大会の成果を踏まえ、かつ、今後の研  
 究大会全国大会の在り方はどうあるべきか、本県の実行  
 委員、全公教の役員の皆様と協議を重ね、「ブロック参  
 集型、全国オンライン参加のハイブリッド開催」としま  
 した。

開催方法の概要

1日目の全体会については、参集可能な地域（今回は  
 東北ブロックを想定、状況によっては、開催県のみとい  
 うこともあり得る）の会員は全体会場であるアイーナい  
 わて県民情報交流センターにて、記念講演・シンポジウ  
 ムをお聞きいただくとともに、全国の会員に向けてはZ  
 oomによりオンライン配信することとしています。

2日目の分科会については、参集の会員は、コロナ禍  
 以前と同様8人のグループを編成、顔を突き合わせての  
 協議を行います。全国各地の副校長・教頭会で共同研究  
 されたさまざまな提言を基に、参集した各県・各校の副  
 校長・教頭が、それぞれの実践とともに協議していただ  
 きたいと思えます。

また、オンライン参加の副校長・教頭については、Z  
 oomのブレイクアウトルームの機能により、ランダム  
 に4人編成のグループを組んでいただき、提言について  
 協議します。グループを4人とするので、画面上に表示  
 される参加者が少なく、かつ発言回数が多くなること  
 で、協議が深まることが期待されます。

開催方法のポイント

ポイントは、参集参加のグループとオンライン参加の

グループ、特にオンライン参加のグループ同士の意見を  
 いかにか有机的に関連させながら分科会を進行するかとい  
 うことです。このことについては、分科会の進行の在り  
 方により解決すべく、現在も大会実行委員会研究部を中  
 心に細部を詰めている段階です。具体的には、グループ  
 協議の時間設定、グループ間の（オンライン参加のグル  
 ープも含めて）意見交換、そして何より、各分科会グル  
 ープ協議の「協議の視点」の吟味、等々です。

また、オンライン参加のグループについては、これま  
 でと大きく異なり、「事前の進行役の設定」がありませ  
 ん。その場で「初めて会った」先生方の中で、任意に進  
 行役を選定し、協議を進めていただくこととなります。  
 グループ間の意見交換についても、オンライン参加のグ  
 ループのどのグループに発言していただくか、事前の打  
 診を行わず、参加者の名簿により、まさに突然指名させ  
 ていただくことを予定しています。

全公教全国大会開催にあたって

全公教研究大会の開催は、我々副校長・教頭が、現在  
 の教育課題について、他都道府県の施策や各校の状況に  
 ついて多面的に情報を収集し、意見交換を行うことで、  
 資質向上に資することを目的としています。そのためにも、  
 オンライン参加の皆様にもより多く発言いただき、  
 参集参加のグループ、オンライン参加のグループそれぞれ  
 のグループの意見を分科会全体で共有することが、そ  
 の目的を果たすことに繋がると考えています。

この「ハイブリッド開催」に向け準備しながら、「や  
 はり研修会は参集型が望ましい」と思わない日はありま  
 せん。全国の副校長・教頭の皆様に、岩手の自然を愛で  
 ていただきたいし、何より、東日本大震災津波からの復  
 興の姿をじかに感じていただきたい。しかし、コロナ禍  
 により、今まで以上に煩雑な業務を抱え、時間に追われ  
 る日々の中、オンライン開催のメリットを生かし、全国  
 の「仲間」とともに、我々の抱える教育課題を解決する  
 より多くのヒントを本研究大会で得られるよう、実行委

員会一同、鋭意準備を進めているところで。

分科会イメージ

・参集参加は、8人のグループを編成、各グループの  
 協議の進行は岩手県副校長が行う。  
 ・オンライン参加者は、当日の参加者により、その場  
 でランダムに4人のグループを編成する。  
 ・オンライン参加者のグループ協議の進行役は、当日  
 選定する。  
 ・オンライングループ、参集グループとの意見交換や  
 提言者、助言者との意見交換を分科会司会者が行  
 う。

